

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第052号(通算)

令和4年4月27日(水)発行

早いもので、4月も最終週となります。明日は、一日遠足のため2日繰り上げて水曜日に発行しています。今回は、先週行われた学年朝礼の様子や二十四節気では『穀雨(こくう)』と呼ばれるこの季節に校内で見られる日本の色、4月の景色についてお伝えします。

4月18日(月)の学年朝礼

【3学年 徳田 麦 先生の講話】



3つの「受験成功のカギ」

①「手ぶらで行かない」

職員室や尚学舎で先生を

待つ時間、バスを待つ時間、ちょっとしたスキマ時間に何をしながら過ごしますか？

1日は24時間の積み重ねです。小さな積み重ねが大きな差になります。

②「迷ったら、行け」

本当はやった方がよいと思うことを、やろうかどうか迷うことがあると思います。朝起きようかどうか、雨が降っていても自習に行こうかどうか、希望者を募っている取り組みに参加しようかどうか等…。受験に関しては、「迷ったら、行け」です。

③「五感に優しい環境を」

学習するというと、頭だけ使っている印象があるかもしれませんが、人間の五感は常に働いているものです。集中しようとするとき、電気の子カチカチも、隣の人の物音も気になりますよね。五感に優しい環境に身を置いて学習することをお勧めします。

【2学年 是枝 利江 先生の講話】



入学式における校長式辞をもとに、高校生活を大切にするために実践して欲しい3点にふれて講話があり

ました。(詳細は、校長通信第050号に記載してあります。)

入学式のLHRで、今年目標を決めました。教室に掲示しています。自分の目標について、話す「宣言をする」というのは、行動を起こすための一歩となります。2学年目標を「自分自身を大切にするとともに他者を尊重し、自己管理によって基本的な生活習慣を確立し、学習やさまざまな活動に主体的に取り組むことが出来る生徒を育てる」と決めました。皆さんも入学式の校長式辞にあった3点

①「感謝の気持ちを示そう。まずは挨拶から」

②「他人を立てよ。そうすれば自分が立つ」

③「人生はどこまで行っても自分磨きの道。自分磨きをやめず、大変と思わず楽しんで取り組もう。」

これらを実践していきましょう。

【1学年 郡山 博司 先生の講話】



初めての学年朝礼は整列方法の確認で終わりましたが、その前に、初めての朝自習が4/18より始まりまし

た。事前指導として、「自学自習の心得」について講話がありました。ポイントは以下の通りです。

①自分の将来を本気で考え、今この時期にやるべきことをやる

②内容を理解し、見ないで「書ける、説明できる」まで学習する

③時間を決めて(計って)、集中して取り組む

④黙ってやる(自分の集中力を切らさないことは周囲への気配りである。)以上です。

大事なことは、自習中は自分だけの世界を作って集中し、友だちと教え合うこともしない。

二十四節気『穀雨』

4月19日～5月4日ごろ

穀雨(こくう)とは、地上にあるたくさんの穀物に、たっぷりと水分と栄養がため込まれ、元気に育つよう、天からの贈り物でもある恵みの雨が、しっとりと降り注いでいる頃のことです。



雨後の苔の色も美しいものです。

4 月 の 色

日本の自然や文化から生まれた美しい伝統色。心を落ち着けて見渡してみるといろいろな色に気づきます。日本語が持つ多彩な色の名前、いくつか紹介しています。ぜひお気に入りの「にっぽんのいろ」を見つけてみてください。



乙女色(おとめいろ)

愛らしくも芯の強さを兼ね備えた薄いピンク色が、古くから人々に愛されてきました。八重咲きの花を咲かせ、豊満な花弁が特徴の「乙女椿」の花の色とも言われます。心をふんわりと包み込み明るい気持ちにさせてくれる色合いです。私の自宅の椿も綺麗に咲いています。



裏葉色(うらばいろ)

くすみのある薄い黄緑色は、草木の葉の裏側のような白っぽい色合いです。着物を身に付ける際に、明るく濃い色と組み合わせられて楽しむなど、平安時代から使われてきました。葉の裏側に注目した日本人の繊細な感性が現れた色です。新芽が芽吹いています。



蒼色(そうしよく)

爽やかで瑞々しい、緑の葉のような深い緑色があざやかです。色名の「蒼」は、草葉が深く生い茂る様子を表しているといい、山や野原の様子を描く際によく用いられました。日本が誇る美しい自然の風景が眼前に広がるようです。神戈陵の杜の緑も美しいです。